



現代世界演劇 11 (全17巻別巻1)  
記録的演劇

定価 二二〇〇円

一九七一年四月一〇日印刷  
一九七一年四月二〇日発行

訳者 ©

毛利 三 敏  
五十 嵐  
小宮 曠  
佐藤 恭 子

発行者

草 野 貞 之

印刷者

田 中 昭 三

発行所 株式会社 白水社

東京都千代田区神田小川町三の二四  
電話東京(四)七八二二(代)  
振替東京三三二二八  
郵便番号一〇一

理想社印刷・加瀬製本

(分) 0397 (製) 51610 (出) 6911

# 現代世界演劇

11

記録的演劇

白水社

一ク一敗北 是利三彌

*Nordahl Grieg*.....**NEDERLAND**

スー憂愁と権力 五十嵐豊夫

*Peter Hacks*.....**DIE SORGEN UND DIE MÜHESAMEN**

イタリーニルンベルク裁判 小宮健三

*Rolf Schneider*.....**PROZESS IN NÜRNBERG**

ローワー七月六日 佐藤啓子

*Maxa & Marpos*.....**HECTOE M**

毛利三彌







ハックス「憂愁と権力」





グリーク「敗北」(©Sturlason)

## 目次

|                 |           |     |
|-----------------|-----------|-----|
| N・グリーク作 毛利三彌訳   | 敗北        | 7   |
| P・ハックス作 五十嵐敏夫訳  | 憂愁と権力     | 109 |
| R・シュナイダー作 小宮曠三訳 | ニュルンベルク裁判 | 199 |
| M・シャトローフ作 佐藤恭子訳 | 七月六日      | 289 |
| 解題              |           | 357 |
| 解説 毛利三彌         |           | 361 |

装幀  
朝倉  
攝



ノルダール・グリーク作 毛利三彌訳

敗北

パリ・コミュニケーション劇

Nordahl Grieg  
NEDERLAGET  
1937



登場人物

ルイ 大工

マリー 彼の妻

商人ブリジョー

カフェの主人

マルタン パン屋職人

リュシアン

ポーリーヌ

ミシエル 御者

モーリス

ギー } 子供

ローズ

ガブリエル・ランジュヴァン 女教員

ピエール

マダム・ラサル ピエールとポーリーヌの母

ローラ 淫売宿の女主人

ヴァルラン<sup>(3)</sup> 製本工

シュルツェ 製本工

傷痍軍人<sup>(1)</sup>

ロッセル大佐

ベスレー<sup>(3)</sup> 機械工

警察署長

第一の女

第二の女

リゴ<sup>(3)</sup>

ルネ・スギュール } 医学生

フェリシテの母

警官

ギュスターヴ・クールベ<sup>(4)</sup>

スザンヌ 彼のモデル

デュレクリューズ<sup>(3)</sup> ジャーナリスト

ティエール<sup>(6)</sup> フランス大統領

エリーズ 彼の夫人

大臣

将校

カトリック神父

ペルラン

ブリュネル

警察員

若い女

国民軍隊長

大司教

マルキ・デュ・ブルーク フランス銀行総裁

デュブラン ティエールの使者

守衛兵

紳士

淑女

国民軍兵士

ガリフエ<sup>(エ)</sup>將軍

シルヴィ・ジェラル オペラ座の踊り子

中尉

白髪の男

労働者たち、將兵たち、ヴェルサイユ軍の兵士たち、  
女たち。

## 第一幕

### I

モンマルトルの通り。一八七一年三月のある日の午後。

オーケストラ・ピットへおりる階段が舞台両端にあり、通りは下へ伸びている。舞台上手に、小さなカフェがあり、テーブルが外に並んでいる。下手に質屋。家の間を走る通りは階段となつて上へ伸びている。この中央階段の右側に淫売宿<sup>いんばく</sup>がある。

商人ブリジョーがカフェの外のテーブルにすわっている。年のころ五十歳。質屋の前には長い人の列。下手階段のほう、マンホールのまわりに一群の人び

と。モーリスが釣糸<sup>つりいと</sup>で釣っている。彼は十歳の少年。御者のミシェルが辛抱強くながめている。彼は六十歳。九歳か十歳の子供二人、ギーとローズはときどきのぞきこみ、また退屈顔に戻る。若者のピエールが、無感情風にそばに寝そべっている。薄暗がりのなかに小さな女の子のフェリシテが眠っているのが見える。みんな青白い顔をし、空腹に苦しんでいる。

上手階段で。

若い大工のルイと彼の女房マリーがゆっくりのぼってくる。

ルイ（立ち止まり、腕にかかえた鉋<sup>かんな</sup>をながめる）いや、だめだ。この鉋を質入れするこたあ、どうしてもできねえ。マリー——ほかにはもう、なにもないじゃないか、あんた。ルイ 鋸<sup>のこぎり</sup>と鑿<sup>のみ</sup>だつて——手放したのはまちげえだった。だが、鉋は——おめえ、わかんねえのかい？  
マリー——わかつてるよ。

ルイ 一日だけ待ってくれ！ あしたは仕事にありつけるかもしれないねえ。

マリー この二か月、あんた毎日そう言ってるじゃないか。ルイ 鉈ぐんを手放したら、もうおしめえだ！ 道具なしじゃ使いもんにならねえ。もう仕事にはありつけねえよ。絶対に！

マリー でも今日は子供に食べさせてやらなくちゃ。あしたまで待てば、あの子は墓場行きだよ。（彼らはよろよろと舞台へ上がっていき、質屋の列に加わる）

カフェの外で。

商人ブリジョー（カフェの主人に対していらだって）あの娘こを見ないかね？ ポーリーヌ・ラサルって名前だ。黒くて、ほっそりした若い娘。ほんのねんいだよ。

主人 この通りじゃみんな知ってますよ。  
ブリジョー あの娘この母親も見ないかね？ 四時にここへ来るはずなんだが。前金を渡してあるんだ、守ってくれなくちゃ。

列のなかで。

パン屋職人のマルタンがうしろのマリーとルイをふりかえる。

マルタン（遠くをさし）ほら、あれはドイツ兵のキャンブの煙よ！ 豚料理だぜ、肉にじゃがいも、メリケン粉とくらあ。たらふくね。

ビスマルクの大將さん、ご満悦だろうよ。おれたちあ、大將の意のままであ。（通り全体をひとながめし）ああ、いまは、平和とくらあね。

ルイ あの子が大きくなったら、仇かたきをとってくれるよな、マリー？

マリー だから鉈ぐんを売る気になったのかい？

ルイ あの子が仇をとってくれるよな。

中央階段で。

リュシアンとポーリーヌがそっとおりてくる。リュシアンは二十歳、ポーリーヌは十五歳。ブリジョーを見て突然止まる。

ポーリーヌ あそこにいるわ！

リュシアン 見ろよ、あの目つき、きみを捜してるんだ。

老いぼれ豚め。

ポーリーヌ あんなやつにかまわないで！（彼の首に抱

きつき）教会の墓地へ逃げましょう。（手をつないで階

段を走りのぼる）

下手階段で。

御者ミシエル こついてるかい？

モーリス（糸を引いて） ちがうと思う。ここは取りつく  
されてるよ。

ミシエル もうちつとやってみな！

モーリス（針を調べて） ほんとだ、畜生！ まだいるん  
だな、餌をとりやがった。

ミシエル（満足げに） ほうら！ 新しい餌をつけなく  
ちやな、味のいいやつ。やつあ、その気になりやあ、狡  
いもんだ。しかしこいつにはがまんできない。あの古株  
の悪魔めが。

ガブリエル・ランジュヴァン（若い女教員。下手階段を

のぼってきて立ち止まり、モーリスのほうにかがみこ  
む。彼はちょうど針を投げおろしたところ） 魚釣？

なにを釣っているの？

モーリス 鼠ねずみ。

ガブリエル 釣針で！

わからないの、そんなこと鼠にしてみれば恐ろしく痛い  
ことよ。

ビエール（腕をついて体を起こし鋭く言う） 黙ってろ。

モーリス（釣りながら） そんな言いかたするなよ。この  
人、とてもおかしな人だけど、親切だよ。

ビエール あんた、おれたちは痛目目に会ってないと思う  
のかい——口から血を出してる鼠以上に！

ガブリエル そうね。（彼らの間の階段上にすわる）

ギー ねえ——鼠とったらぼくにくれよな。

モーリス いやだ。

ギー 自分で食べるのかい？

モーリス おれがそんな金持ちだと思ふのか？ 売るん  
だ。三フラン。

ギー 今日はどう一匹売ってるじゃないか。

モーリス 貯めるんだ。

カフェの外で。

ブリジョー（モーリスのほうへうなずきながら、主人に）  
あの子は偉くなるよ。貯めるんだってさ。鼠をとって  
ね。空からはじめる。あの娘を見かけないかね、ちっと  
も？ あの小女郎め！

階段で。

ミシエル（ガブリエルに） ええ、この子はほんとに感心  
な子ですよ。この子がいなかったら、あっしあ、もうど  
うしていいかわかりやしません。マルトを失くしちま  
いましたんでね。

ガブリエル マルトって、あなたの奥さん？

ミシエル いいえ、ちがいますあ。

モーリス 馬だよ。

ミシエル 殺めちまわなくちゃならなかったんですよ。秣  
もなにもありやしねえ。おしめえにや、骨と皮。大きな  
傷口をあけてね。終わりの一週間というもの、毎日、通

りでぶっ倒れてましたよ。

しかしいまはモーリスが、金を貯めて馬を買うつて言  
うんで。

ガブリエル あなたたち、親子？

ミシエル（首をふって） この子の父親はドイツと戦って  
死んじまいました。この子は家なしなんです。それで  
マルトの馬小屋に寝とったんです、昼間はわしといっ  
しょに御者席にすわってね。

ガブリエル わたしのところに読み書きを習いにこなく  
なったわね？ あなた、とっても頭いいのに！

好きなときおいでなさい。なんでも教えてあげるわ。勉  
強って役にたつのよ。いつか、自由で頑丈な人になるた  
めにね。

モーリス 暇がないんだ。お金貯めて馬を買うんだもん。

ガブリエル（ギーとローズに） じゃあ、あなたたちは！  
教えてあげる、喜んで。あなたたちは馬を買わないで  
しょ！ なにしてるの？

ギー おれたち、失業中。

ローズ 紡績工場を首になったわ。

ガブリエル でも通りでく、だを巻いているよりは、わたし



のところへ来るほうがよくない？

ギー　ここに寝そべってるほうがいいやい。そうすりゃ、あまり気にならないもの。

ガブリエル　ご飯食べてないことが？

ギーはうなずく。

ガブリエル　こんな子が——わたしには、なにもあげるものはないし。その小さな女の子、眠ってるの？

モーリス　うん。ぼくたちが来たときからずっとあそこで寝てるよ。

ガブリエル　あんなに痩せて、小さいわ！（立ち上がろうとしてやめる）いえ、起こさないでおくわ。

マダム・ラサルが酔って鼻歌まじりに下手階段を上がってくる。ギーとローズがとんでいく。

ギー　なにか飲むもの、おくれよ。瓶を出しなよ！

ローズ　ちょっとだけ。一滴くらい、なめさせてよ、けち。ピエール　ほっとけよ。

マダム・ラサル　そう！　おっかさんをかばうたあ、いい息子だ。

ピエール　黙んなよ。

マダム・ラサル　なんて顔つきだい、ええ？　おっかさんを喜ばせたくはないってんだな。おっかさんは、これでいい気持ちなんだと思うのかい？

ピエール　家へ帰んなよ。

マダム・ラサル　意地悪、おまえはいつだってそうだ。

ブリジョー（マダム・ラサルのほうへ急いで来て）　あの娘はどこだ？　わしはここで何時間待ったと思う、この酔っぱらい女め！　飲まずに、あの娘から目を離すなど言ったらう。へべれけだ。ひどい母親もあったものさ。マダム・ラサル　娘が淫売宿で水揚げする晩に、母親が酔っぱらっちゃいけないと言うんですかね？

ブリジョー　しかし、最初の客はわしのはずだ。そのために二十フラン、前金で渡したろう。おまえはあの娘を見張ってると言った。だのにどうだ、あの娘は男とふらつきまわっている。だれとでもいちゃつく豚野郎とだ。あの娘を連れてこい。きつと外で、わしをだましているんだ。